校長通信『道標（みちしるべ）』　第26号
令和４年２月１日
福岡県立若松商業高等学校　校長　谷川 陽一

二十四節気：２月３日（木）節分（せつぶん）
冬と春の季節が替わる「立春（りっしゅん）」の前日が「節分」（季節が分かれる節目）です。本来「節分」は各季節の始まりである立春（りっしゅん）・立夏（りっか）・立秋（りっしゅう）・立冬（りっとう）の前日のことをさしていしたが、現在は「立春」の前日が「節分」とされています。

母校を愛する気持ちを育てる　－ 若商生であることを誇りに －

現在、オミクロン株と呼ばれる新型コロナウイルス感染症が広がり「まん延防止等重点措置」などの拡大防止対策により、イベントの人数制限や飲食店等の営業時間短縮要請などの措置がなされています。学校では感染症防止対策の徹底を図りながら「学びの確保・学びを止めない」ことを最優先として教育活動を継続します。校内では、これまでどおりマスク着用の徹底、検温や黙食などの感染症防止対策をお願いします。また、家庭では不要不急の外出・移動をさけ、やむを得ず外出する際でも、密集をさける・マスクを着用する・大声での会話を控えるなどの感染防止対策を徹底しましょう。

さて、今回は母校を愛し、誇りを持つための取り組みについてお伝えます。生徒の皆さんが学ぶ校舎は、昭和３５年（1960 年）の開校時に竣工（しゅんこう：建物の工事が終わり使用すること）されました。その後、昭和６０年（1985 年）から平成２９年（2017 年）にかけての大規模改築により、現在の校舎に建て替えられました。このとき、各施設の名称を定め、表札を設置する動きがありました。この度、創立６０周年記念事業の一環として各施設の入り口四か所に表札を設置する運びとなりました。生徒の皆さんが母校を愛する気持ちを育み、施設を末永く大切に使用することを願い名称を名付けました。

- 正面玄関口･･･**福岡県立若松商業高等学校**
- 教室棟入口･･･**彩雲立志館（あやぐもりっしかん）**
  志を立て、目標達成に向けて自分を磨いてほしいとの念（おも）いを込めました。
- 体育館入口･･･**彩雲潔技館（あやぐもけつぎかん）**
  潔い技を磨き、生徒の皆さんの健やかな成長を願う念いを込めました。
- 武道場入口･･･**彩雲鍛錬館（あやぐもたんれんかん）**
  厳しい修養を積んで、強い心身を鍛えてほしいとの念いを込めました。

なお、彩雲とは古来から吉兆（よいことの起こる前ぶれ）といわれる気象現象です。本校を見守る花房山に現れるとされています。校歌や応援歌にも「彩雲なびく･･･」と謳（うた）われており、本校のスクールイメージでもあります。本校の同窓会『彩雲会』の名称としても使われています。

※揮毫（きごう）本校「書道」担当：宮本 大輔 先生

商苑（旧学術研究誌）第７０号発刊されます　－ 歴史と伝統を次世代へ繋ぐ －

商苑（しょうえん）は本校の源流である若松高校商業課程（昭和２４年：1949 年）の第１回生５０名から引き継いだ生徒研究を蓄積（ちくせき）し、昭和２６年（1951 年）に記念すべき第１号が創刊されました。残念ながら現在では第１号から第６号は本校及び若松高校にも残っておらず、本校創立１０周年史（昭和４４年：1969 年）の記録をたよりに当時の先輩方の偉業を偲（しの）ぶばかりです。『商苑』の名称は「商業に関する学術研究生徒の集まる所（苑）」商業課程生徒の学習発表の場が由来（ゆらい）です。

本校は創立６２年目ですが、その約１０年前から発刊されています。創刊当初は先生方と生徒による戦後の復興に寄与するための経済研究の内容が主でありました。創刊以来、毎年刊行され、令和３年度までに７０号が刊行され半世紀以上にわたり、その伝統が現在まで連綿（れんめん：長く続いて絶えないこと）と継承されています。

現在では、学年・生徒会活動・部活動・学校行事等の活動紹介が主となる学校機関誌へと成長しており『商苑』の歴史に新たな風を吹き込んでいます。

昭和３０年代（1960 年ごろ）の「商苑」